

2017年12月3日(日) 於：大阪国際交流センター
第32回大阪府作業療法学会

ライフレビューを用い生きがいを明確にすることによって、うつ状態が寛解した認知症高齢者の1例

聖志会 渡辺病院 作業療法課

鹿田美空 林田綾 池添陽介 菊池多恵

【はじめに】 認知症高齢者がうつ状態を呈することは少なくない。アルツハイマー病、脳血管性障害など器質性疾患が原因となる場合が多いが、高齢期に見られる喪失体験など心因が明確である場合も少なくない。今回我々は、ライフレビューを行なうことにより、心因を明確にし、それをもとに作業療法を行なった結果、うつ状態が寛解した認知症高齢者の1例を経験したので若干の考察を加え報告したい。発表に際して個人情報取り扱い留意し、本人、ご家族の同意を得た後、施設管理者の承諾を得た。

【症例紹介】 80歳代後半、女性、アルツハイマー型認知症、既往歴：両大腿骨骨折術人工骨頭置換術後、右変形性室関節症あり。家族歴：5人兄弟の第5子。30歳後半に結婚。子供は、男性の前妻の子が二人。現病歴：幼少時から、戦前戦後を跨いで、大好きな日本舞踊を習い、10歳後半には師範となった。その頃、踊りに反対していた父親にも認められ、泣くほど嬉しかった。弟子は30人程度おり、X-4年まで踊りの師匠をしていた。X-4年自宅で転倒、それを機に施設へ入所し、静穏に経過していた。X年、施設で不穏、徘徊が見られたため、当院の隣接する介護付有料老人ホームに入所した。

【初期評価】 HDS-R：7点、SDS：57、TUG：32秒、Barthel Index：80、IADL2/8

【初回面接】 主治医から、活動性維持・向上のため、作業療法参加を促されるも、拒否し、自室でテレビを見ていることが多かった。作業療法士が面接をすると「この足では何もできない」「死にたい。殺してほしい」と泣きじゃくった。

そこで、適切な作業療法の方法を明らかにするため、ライフレビューを行なった。

【ライフレビューによる評価】 家庭と家族を含めた幼少期、成年期、成人期、人生のまとめと4時期についての生活を聞き取った。幼少期は「踊りとの出会いと戦争」、青年期は「踊りの師匠への昇格と芸名取得」、成人期は「弟子の誕生と結婚」、人生のまとめとして「いい人生だった、踊りに出会えて幸せだった」とまとめた。また、どのような質問をしても、踊りに関する話になり「踊りとの出会い」「芸名の由来」「両親との思い出」「弟子が出来たこと」を喜びとして、また「戦時中の出来事」を苦しみとして頻回に語った。以上

から、現在のうつ状態は、運動器疾患によって踊りが出来なくなった喪失体験に起因するものであると考えた。

【目標】「踊りについて、指導したい」「踊りの話をしたい」という本人の思いを達成することによって、うつ状態の改善。

【介入方法】自尊心を回復する目的で、8月に開催される「夏祭り」について、①盆踊りの選曲の相談②ホーム職員への踊りの指導を依頼した。

【経過】その結果、A氏は「炭坑節」を提案し、「わからないことは、教えてあげるといい、スタッフルームへわざわざ出向いて指導してくれた。また、ホーム主催のファッションショーでは、自ら着物姿になり、他の入所者に披露することが出来た。その結果、「嬉しくて涙が出る」「ここに居れて幸せ。ありがとう。いい人生だった。」「踊りに出会えて感謝」「親にも周りの人へも感謝です」といった。以前見られていた後ろ向き発言が減少した。SDSは34点となった。またTUGも23秒と改善されていた。

【考察】ライフレビューを行なうことにより、いかに踊りがA氏の人生の中心であったかが明確になり、それをもとに、作業療法を組み立てた。スタッフが、相談を持ちかけたり、指導される立場となることにより、過去の自尊心が回復し、スタッフとの信頼関係も構築でき、うつ状態が寛解したと考えられた貴重な一例であった。